# 島根の地域医療

第76号
2022/2/28

SHIMANE AKAHIGE BANK

発行者　島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面


◆地域医療最前線 NO.81「島根大学みらい棟２Ｆにカフェができた？！」
～地域医療現場と大学を結ぶTeal型組織Neural GP Network～
《しまね総合診療センター長　白石　吉彦》
◆研修医のページ NO.59「皆様から信頼される眼科医を目指して」《松江市立病院研修医　柳田　俊一》
◆看護師さんのページ NO.59「いずれ行く道のために、今できる事を」
《医療法人橘井堂　津和野共存病院　病棟　看介護係長　大庭　淳子》
◆中学生が作成したポスターとチラシの紹介　◆お知らせ　◆編集後記


## 地域医療最前線 No.81

# 島根大学みらい棟２Ｆにカフェができた?!

～地域医療現場と大学を結ぶTeal型組織Neural GP Network～

しまね総合診療センター長　白石　吉彦

### はじめに

総合診療医が19番目の専門医になった、地域枠がある。これで日本全国の地域医療がうまくいくはず・・・だった。ところが、どこの県でもうまくいっているとはいいがたい。島根県も同じ。そんな中で島根大学は厚生労働省の「総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業」に採択されました。要するに総合診療医を養成するいろんなチャレンジをしてみなさい、ってことです。ちなみに令和３年度は秋田・新潟・福島・三重・福井・島根・大分の７大学が採択されています。

### センター設立

２０２１年４月に島根大学医学部附属病院総合診療医センター（通称しまね総合診療センター）が立ち上がりました。まず考えたのは、なぜ島根県で総合診療医の養成がうまくいっていないのか。大学入学時には目をキラキラさせながら、地域医療、総合診療って言葉を口にする１年生がたくさんいるのです。また、全国に先駆けて平成18年度から全学生を対象に地域実習も行われ、総合診療系、地域医療系の講座も複数あり、それぞれに一生懸命頑張っていて、県下の医療機関には優れた総合診療医が多数いるのに、です。そもそも島根県は、高速道路も新幹線も完備されていないなかで東西に約２３０kmと長く、南は中国山地があり、離島もあります。後継の予定のたたない診療所医師の高齢化も著しく、50－１００床の病院が地域医療を支えています。そういったところでは総合診療医が必要なのです。

### チームビルド

一番の問題は大学病院というセッティングの中で総合診療、地域医療を教えるという困難さです。なので、地域で活躍する、地域の総合診療医が大学で教えるということが必須であると考えました。まず県内の総合診療医をネットワーク化し、ミッション・ビジョンを共有化することとしました。我々のミッションは、へき地・離島を含む全ての地域の住民が安心して過ごせるよう優秀な総合診療医を養成し、持続可能な医療を提供し続けることです。また、ビジョンはヒエラルキー並びに組織間で壁の無い総合診療医育成の為のネットワークを作り、様々な場所からリアルタイムで教育・研究・臨床のサポートを行うことを掲げています。令和３年が始まってまず初めにSlack®を立ち上げ、一人ずつ声をかけ、令和３年11月現在で、登録１２６名、アクティブメンバー64名となっています。たくさんのディスカッションをおこないながら、やり取りの件数は10か月で１４，７００件となっています。すべてのメンバーがリーダーシップをとれるようTeal組織を目指しています。いいと思う意見が出たときには、プロジェクトリーダーになっていただき、皆が全力で支えるという形で事業を推進しています。オンラ

しまね総合診療センターロゴ

しまね総合診療センター長室
島根大学みらい棟２Ｆカフェ？！

イン会議としてのZoom®、文章や表などのオンライン保存としてのGoogle Drive®、全体の様々なプロジェクトをガントチャートなどで見える化するためのWBS（Work Breakdown Structure）としてのRedmine®を駆使して、Virtual Officeを構築し、距離と時間の問題をクリアしました。

**地域枠・緊急医師確保対策枠の受験前オンライン体験実習**

本来受験前に地域医療の現場で体験実習を5日間行い、面接、試験に臨みますが、令和2年度はコロナ禍で実施できませんでした。島根の地域医療を見たうえで、受験をしてほしいという強い思いで令和3年度は当センターが音頭をとって、県内の11医療機関で計51名の希望者にオンライン体験実習を行いました。外来、病棟、在宅の医療見学、コメディカルや地域住民との討議などを行ってもらいました。2日間ではありましたが、ぼんやりと考えていた総合診療、地域医療というものが明確化し、医学部受験の意思を固めた学生がほとんどであったと感じています。

**ビデオオンデマンド**

初期研修医が経験すべき症候（29症候）、日本プライマリ・ケア連合学会／日本専門医機構 新・家庭医療専門研修／総合診療専門研修で経験すべき症候（59症候）から、共通性と重複性を考慮して40症候を選定、これに家庭医療のコアエッセンスを加えて島根県の総合診療医が86本のレクチャービデオを作成し、ホームページ上で公開しました。これでいつでもどこからでも何度でも学習することが可能になりました。現在、専攻医がもっと知りたいという内容のアドバンスドビデオをさらに40本作製中です。

**今後**

現在進行中のこととして、県内の総合診療系若手医師の交流プロジェクトとして、県内の医療機関で臨床見学の交流事業を行っています。他の地域で行われている医療現場を見学することで、双方にスキル、マインドともに良い影響があると感じています。学内での取り組みとしては4年生の37コマの症候学の授業を学生主体で作らせ、それを県内の総合診療医が見守るという形で行っています。また2022年度から始まる国際認証対応の4週間の地域実習も既存の講座とともに運営を行っていきます。

**最後に**

そもそも地域で医師として働く、ということは相当にやりがいがあり、楽しいことです。総合診療マインドがあれば、なおさらです。自分の知識やスキルもアップしながら、目の前の患者さん、地域の住民のためになり、かつ自分自身の生活も豊かなものにすることができるということを県下の総合診療医とともにみらい棟2Fのカフェ（笑）より発信していきたいと思います。

## 研修医のページ No.59

# 皆様から信頼される眼科医を目指して

松江市立病院 研修医　柳田　俊一

皆様、初めまして。私は、松江市立病院で初期臨床研修医をしております、柳田俊一と申します。「島根の地域医療」に投稿させていただくことになり、大変光栄に思っております。この度は、医師を志したきっかけ、研修の様子、将来の医師像について書きたいと思います。

まず、医師を志したきっかけについてですが、大病を治してもらったり、親が医師であったりなどという特別な理由があった訳ではありません。薬剤を扱う仕事をしていた祖父が、医師の仕事を間近で見てきた中で「患者さんの病気を治して、感謝されることは、医師にしか味わえない最高の喜びで、お前は思いやりがあり、患者さんから好かれる医師にきっとなれる。」と小学生の私に熱く語っていました。当時は、野球が好きで、野球選手になりたいと言ったら、「お前には無理だ。」と一蹴されたことに反発しつつも、医師という職業をこの頃から意識し始めました。それから、中学受験をし、「今でしょ！」でお馴染みの林先生の母校へ入学しました。一浪して、鳥取大学医学部へ進学後、松江市立病院で医師としてスタートすることとなりました。

続いて、研修の様子についてです。松江市立病院は忙しすぎず暇すぎず、自分のペースで研修でき、マイペースな私にとってはとても働きやすい環境だと感じています。そうは言うものの、当直は忙しく、数時間しか眠れない日も多々あります。しかし、その分たくさんの症例経験を積むことができ、2年目になりましたが、できることも増え、自信もついてきたと感じます。仕事外では、研修医と「少人数で」宅飲みをしたり、趣味を楽しんだりなど、プライベートな時間も多く取れています。日中業務では、ローテート科の何人かの入院患者さんを担当し、診察したり、指導医の先生と相談して治療計画を立てたりします。一番難しいと感じたのは、患者さんによって距離感が違うことです。診察に行くたびに喜んでくださり、長話をされる方もいれば、心を閉ざして、あまり関わって欲しくないとされる方もいます。ある方には「あなたに会えて良かった。」と言われた一方で、ある方には関わり合いを拒否されたこともありました。様々な価値観の患者さんと関わりあう中で、人間的に成長させてもらっています。

最後に将来の医師像についてですが、専攻科は眼科です。患者さんから話しかけやすく、安心されるような医

師になれればと考えています。そのためにも、人間性を日々、磨いていきます！松江市立病院で培った経験を、今後出会う患者さんに還元していけるよう努力しますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 看護師さんのページ No.59

# いずれ行く道のために、今できる事を

医療法人橘井堂　津和野共存病院
病棟　看介護係長　大庭　淳子

津和野共存病院は山口県との県境に位置する津和野町唯一の入院医療機関です。人口7，000人を下回る山あいの町で、住み慣れた家で、住み慣れた地域で安心して暮らせるように医療・介護を通して地域包括ケアの一端を担っています。当院に加え法人全体として、介護老人保健施設・診療所・訪問看護ステーションを有し、病院内に津和野町地域包括支援センターが併設されています。そして、10月から地域医療連携センターが立ち上がり、住み慣れた津和野町での在宅支援・在宅看取りを視野に入れて、他職種・他施設と連携し調整や支援を行っています。

私の祖父は73歳で自宅で亡くなりました。１９８０年代（昭和50年代後半）のことです。亡くなる前には意識がなく、かかりつけ医の往診を受けて数時間後に亡くなりました。家で亡くなることは当たり前のことなのだと子ども心に思っていました。畳の上で死ねることを「ありがたい」と思っている雰囲気も感じました。最後の場所が家から病院に代わってきた頃だったのですね。

２０１４年に地域医療構想が制度化され早７年が経ちました。「２０２５年問題」と言う言葉が出てきた当時は、まだまだ先のことと思っていましたが、もう目の前に迫っています。超高齢化社会が到来するとも言われていた当時、すでに自分が超高齢化の地域で働いている事実に改めて気づかされたのを覚えています。２０１５年当時、45・３％だった高齢化率が、現在は約49％になっています。だからこそ、医療だけでなく様々な視点で連携の網を巡らせる必要があり、そこに携わる専門職や身近な家族・隣人などの小さな気づきの積み重ねが日々を支えています。

日本では「死」を縁起の悪いもの、不幸なものとしてタブー視されてきました。今でもそう感じる人は少なくありません。しかし近年、アドバンス・ケア・プランニング（ＡＰＣ）やエンド・オブ・ライフ（ＥＯＬ）について耳にすることが多くなりました。人生最後のステージをどこでどのように過ごし迎えるかを考える人が増えてきました。「死」と向かい合ってこそ、意味のある「生」を送ることができるということに気付き始めたようにも思います。当院でも地域に出向き、町民の方々を対象にＡＰＣやＥＯＬについて周知活動に力を入れています。また健康寿命を延ばすために保健師や理学療法士とともに運動を取り入れた講演も行っています。そして何より、いつも話しやすく報告や相談に対応し、急な往診依頼にも「行きましょう」と答えていただける医師の存在が、大きな役割と安心を担っています。

私が20代の頃から関わってきた患者さんの中には、所謂リピーターの方々も多くいらっしゃいます。入院の頻度が増え、筋力や認知機能の低下も顕著になっていき、やがて最後の時を迎えていかれる状況を見てきました。看護師として20余年が経ち、その方々の人生に関わる仕事をしていることをしみじみ感じます。患者さんご本人・ご家族ともに納得できる最後を迎えられた方、後悔が残る最後を迎えられた方もおられます。当院でも病院で最後を迎える方が多いですが、在宅で人生の最後を迎えたいと希望される方もいらっしゃいます。新型コロナ禍で面会禁止が続き、特に終末期の患者さんやご家族が、自宅で過ごすことを選択されるケースが増えてきています。入院中や外来で関われることは何か、病棟看護師、訪問看護師、退院支援看護師をはじめ多職種でカンファレンスを持ち、患者さん、ご家族と共に在宅生活に向けて計画を立て調整しています。

独居、老々介護、介護者の介護力や意欲の程度など家庭の事情は様々です。家に帰ることが最善とは言えないケースも勿論あります。それでも、例え1日であっても住み慣れた我が家で過ごして頂きたい。そのために私たちを役立てて頂けるようにさらに繋がりを強固にして力を発揮したいと思います。その力を若いスタッフが脈々と受け継ぎ、数十年後の私達のＥＯＬも輝かせてくれることを楽しみにしています。

津和野共存病院　カンファレンス
筆者は後列左から６番目

## 中学生が作成したポスターとチラシの紹介

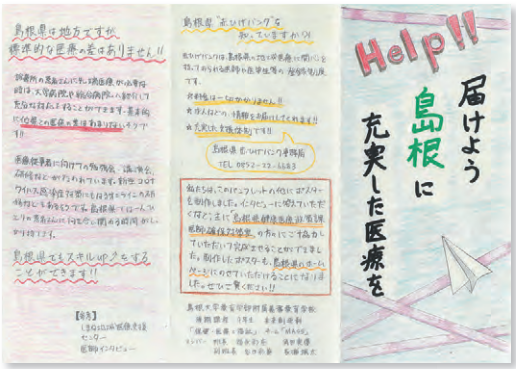
島根大学教育学部附属義務教育学校9年生（中学3年生）の生徒さん4名が、令和3年6月24日（木）に、島根県健康福祉部医療政策課を訪問されました。同校では、9年生のときに「未来創造科」という授業があり、「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう」というテーマで学習をしておられます。自分たちが住んでいるまちの問題点を洗い出し、詳しい方にお話しを伺い情報を集め、それをまとめ、行動するというのが学習の内容です。

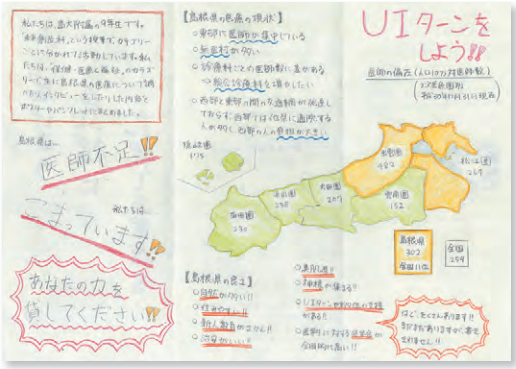
当課を訪問された生徒さんの学習テーマは「医師不足」。島根県は医師が不足していて、その解消のためには、県外で働いている医師を島根県に呼ぶ必要がある、という問題意識から、具体策として、自分たちで医師募集のポスターやチラシを作成することになり、当課を訪問し県内の医療状況について情報を集めようということになったとのことです。

当日は、当課の担当者が、島根県の医療状況について説明をしました。そのうえで、県では「赤ひげバンク」という無料職業紹介事業を実施していて、医師招へいのために専門誌に医師募集広告を掲載したりしています、という説明もしました。

後日、生徒さんから作成したポスターとチラシが送られてきましたので、ご紹介します。

なお、生徒さんの自主性を尊重して、作成されたものをそのまま掲載しています。



# 島根県内で働いてくださる医師を募集しています！

- 専任スタッフ（医師）が面談に伺います。
  Ｗｅｂでの面談も行っています。
- ご希望に応じた医療機関の紹介や生活全般の相談に応じます。
- 医療機関や地域の雰囲気を視察いただくツアーの希望も個別に承ります。（旅費支援あり）
- 令和２年度までの医師招へい実績　１８２名

まずはお気軽にお問い合わせください！

医師募集キャラクター
赤ひげ先生

島根県医療政策課医師確保対策室
〒690-8501　島根県松江市殿町1番地
☎ 0852-22-6683
✉ akahigebank@pref.shimane.lg.jp

赤ひげバンク　で検索

SHIMANE AKAHIGE BANK


## 編集後記

『島根の地域医療』第76号をご覧いただきありがとうございました。
また、お忙しい中にもかかわらず執筆いただいた皆様、ありがとうございました。
島根県HPでは、令和3年12月27日現在の医療機関の医師募集情報を掲載しています。
詳しくは、
https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryo/ishikakuhotaisaku/isi-kyujin.html
または、「島根の医師確保対策」で検索、ご覧ください。